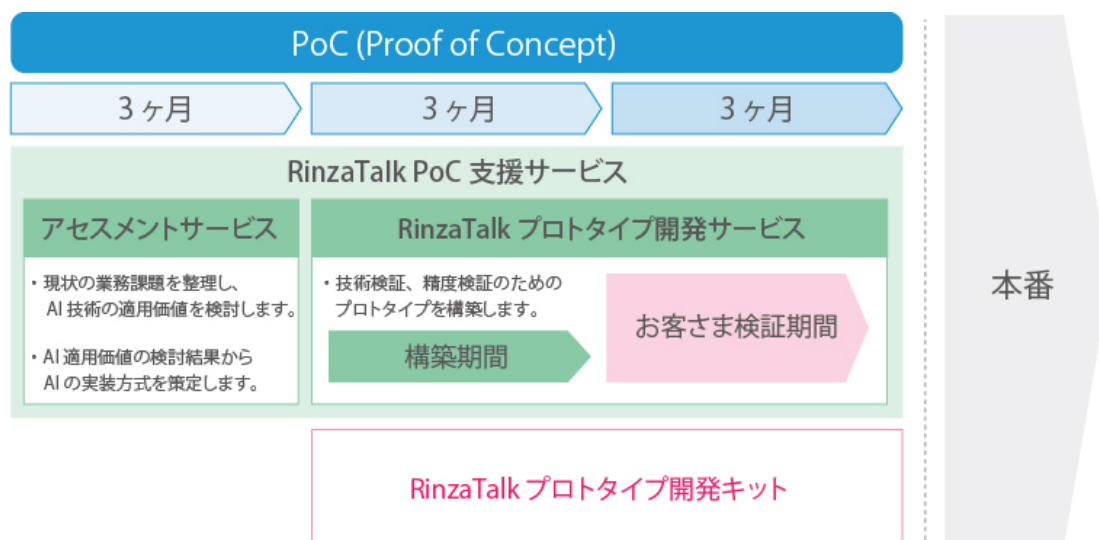


日本ユニシス AI 技術による知的エージェント構築環境の プロトタイプ開発キットと PoC 支援サービスを販売開始

日本ユニシスは、AI（人工知能）関連技術体系「Rinza[®]」を使った知的エージェント構築環境「RinzaTalk[™]」において、業務適用に向けた PoC（Proof Of Concept：概念実証）プロジェクトを円滑に行うための「RinzaTalk プロトタイプ開発キット」と「RinzaTalk PoC 支援サービス」を本日から提供開始します。これらの提供により、お客さまの業務における AI 活用を支援します。



【背景】

昨今、ビジネスや暮らしにイノベーションを起こす推進力として AI 関連技術への期待が高まっています。特に音声応答や文字によるチャットなど、知的エージェントの業務利用に向けた取り組みが進む中で、その有用性を見極めるために、PoC プロジェクトの実施を検討する企業が増えています。しかし、解決すべき課題の見極めやゴールの設定、技術の理解、評価指標の定義など、計画段階で考察すべき事項が多く、プロジェクト開始までに期間を要することが課題になっています。

【RinzaTalk プロトタイプ開発キットについて】

知的エージェントに必要な「会話制御」「自然言語解析」「トークスクリプト管理」「アクション制御」などの機能をセットにしたソフトウェアで、PoC のためのプロトタイプ開発環境を提供します。

<特徴>

1. スモールスタートが可能

「RinzaTalk プロトタイプ開発サービス」で、あらかじめ定義された作業項目に沿って速やかにプロトタイプを開発できます。稼働環境にマイクロソフトのクラウドプラットフォームである Microsoft Azure を利用することで、コスト的にもスモールスタートが可能です。

2. 自然言語処理の辞書、会話スクリプトのメンテナンスが容易

自然言語処理のための辞書、会話スクリプトともに GUI（グラフィカル・ユーザ・インタフェース）を利用した柔軟なメンテナンスが可能で、プログラミングの手間がかかりません。

3. 一問一答に加え、対話応答型のシナリオも可能

一問一答の検索型での応答だけではなく、会話意図や条件などを定義することで対話型シナリオを容易に実装できます。

4. 多様な業務に適用可能

多様なデータソース、業務サービスと連携するための機能により、知的エージェントサービスを多様な業務に適用できます。

【RinzaTalk PoC 支援サービスについて】

PoC のために計画・実施すべき作業プロセスと提供物をあらかじめ定義し、プロジェクトの速やかな立ち上げと遂行を支援します。「RinzaTalk PoC 支援サービス」は、「RinzaTalk アセスメントサービス」と「RinzaTalk プロトタイプ開発サービス」で構成されています。

<RinzaTalk アセスメントサービス>

知的エージェント導入にあたり、お客さまの業務における現状の課題を把握、実現に向けた検討の支援を行います。

1. 現状業務ヒアリング：業務概要の整理、課題の抽出、対応方針を検討
2. RinzaTalk による実現検討：業務フロー作成、シナリオ案作成、連携データおよび関連技術選定
3. 実行計画作成

<RinzaTalk プロトタイプ構築サービス>

「RinzaTalk プロトタイプ開発キット」を利用して、技術検証および業務検証を行うためのプロトタイプを開発します。

1. 仕様検討ワークショップ
2. 適用・実装方針検討
3. プロトタイプ開発
4. プロトタイプ導入支援・評価支援

【参考：知的エージェントサービス RinzaTalk について】

日本ユニシスのオープンな AI 関連技術体系「Rinza」から生まれた知的エージェントサービスです。日本ユニシスの自然言語処理技術、機械学習技術と、マイクロソフトの認知サービス API「Cognitive Services」など、ビジネスエコシステムを構成するパートナーから提供されるクラウドサービスやソフトウェアを適材適所に組み合わせて、人間が行うような「認識」「理解」「判断」「行動」を実現しています。人との対話を通じて知識の集積と活用を行うことができ、コールセンターやヘルプデスクの自動応対や要員支援、店舗における売場案内、SNS の自動応答チャットなど、顧客との多様なコミュニケーション接点に応じた知的エージェントを導入することができます。

「オープンな AI 関連技術体系 Rinza」 <https://www.unisys.co.jp/solution/biz/ai/>

【今後の展開】

「RinzaTalk」を含む AI 関連技術体系「Rinza」の関連サービスで、3 年間で 20 億円のビジネス規模を見込んでいます。

今後も日本ユニシスは、IoT、ビッグデータ技術も合わせて AI 関連技術を応用する能力と実績をさらに高め、お客さま企業・団体やパートナーとともに、よりよい暮らしと新しいビジネスを創り出すビジネスエコシステムの構築を目指します。

以 上

【エンドースメント】今回の発表に当たり、以下のコメントをいただいています。

日本マイクロソフト株式会社 ソリューション&ビジネス開発本部長 業務執行役員 佐藤 久 氏

日本マイクロソフト株式会社は、日本ユニシスグループ様の知的エージェントサービス「RinzaTalk」のプロトタイプ開発キットと PoC 支援サービスの販売開始を心より歓迎いたします。

本サービスによって、日本ユニシスグループ様の優れた自然言語処理技術と最新の認知サービスである Microsoft Cognitive Services が Azure 上で連携することで、ビジネスや暮らしに役立つ知的エージェントサービスを最適なコストでスムーズに構築、検証することが可能になります。AI 技術の業務適用を検討しつつも、何から手を付けていいのかわからないというお客様企業に対して、本サービスがお役に立つものと確信いたします。

今後も日本マイクロソフトは、多様なコミュニケーションのあり方を起点とした新しいビジネスの創出に向けて日本ユニシスグループ様との連携を強化してまいります。

※Rinza、RinzaTalk は、日本ユニシス株式会社の商標または登録商標です。

※Microsoft、Azure は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。